

学認対応IdPホスティングサービス 実証実験の報告と紹介

清水 さや子

国立情報学研究所

概要

1. 学認対応IdPホスティングサービス検討の経緯
2. 実証実験2023の中間報告
(2023年2月～現在継続中)
3. 新しいお知らせ、ご案内

学認対応IdPホスティングサービス 検討の経緯

- 現在、学認の参加機関数は約300
↑ 全国の学認参加対象機関数に対する約30%

• 未参加機関の理由：

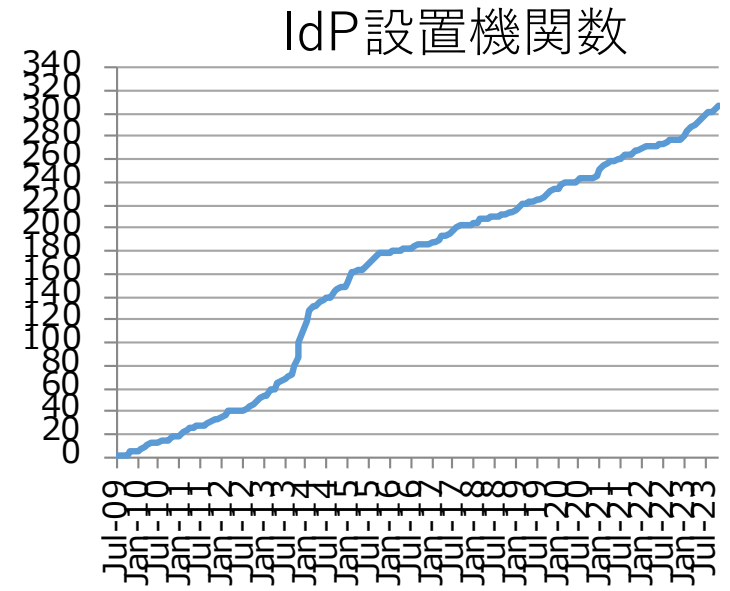
- A) 人間的な問題（運用する人材、参加検討する人材の不足）（58件）
 - B) 技術的な問題（サーバの構築や運用ができないなど）（23件）
 - C) 金銭的な問題（20件）
 - D) 必要かどうかわからない（11件）
 - E) 委託業者が分からない（9件）
 - F) 現在は不要である（5件） などなど
- ➡ IdPサーバの構築、運用がネックになっている場合が多い

※ ()内の件数は2022年10月のSINET参加機関を対象としたアンケート結果（複数回答可）
 ※ 参考URL <https://www.gakunin.jp/document/684>

- 次世代学認では、全ての人々が認証できるようにしたい、認証レベルを上げたい
- もっと多くの機関に学認参加していただきたい

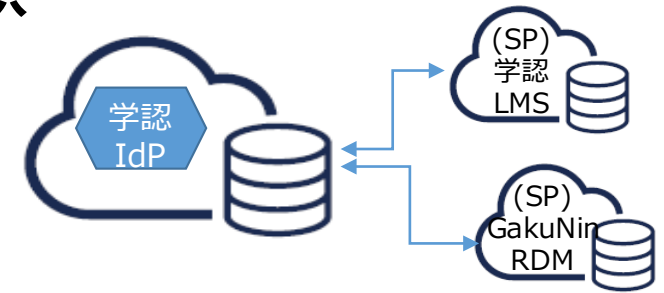
➡

学認参加の障壁を下げるため、障壁の一つであると考えられるIdPを、
 NIで貸し出すためのサービス（学認対応IdPホスティングサービス）を検討開始
（2022年度～）



学認対応IdPホスティングサービス 実証実験2023の概要

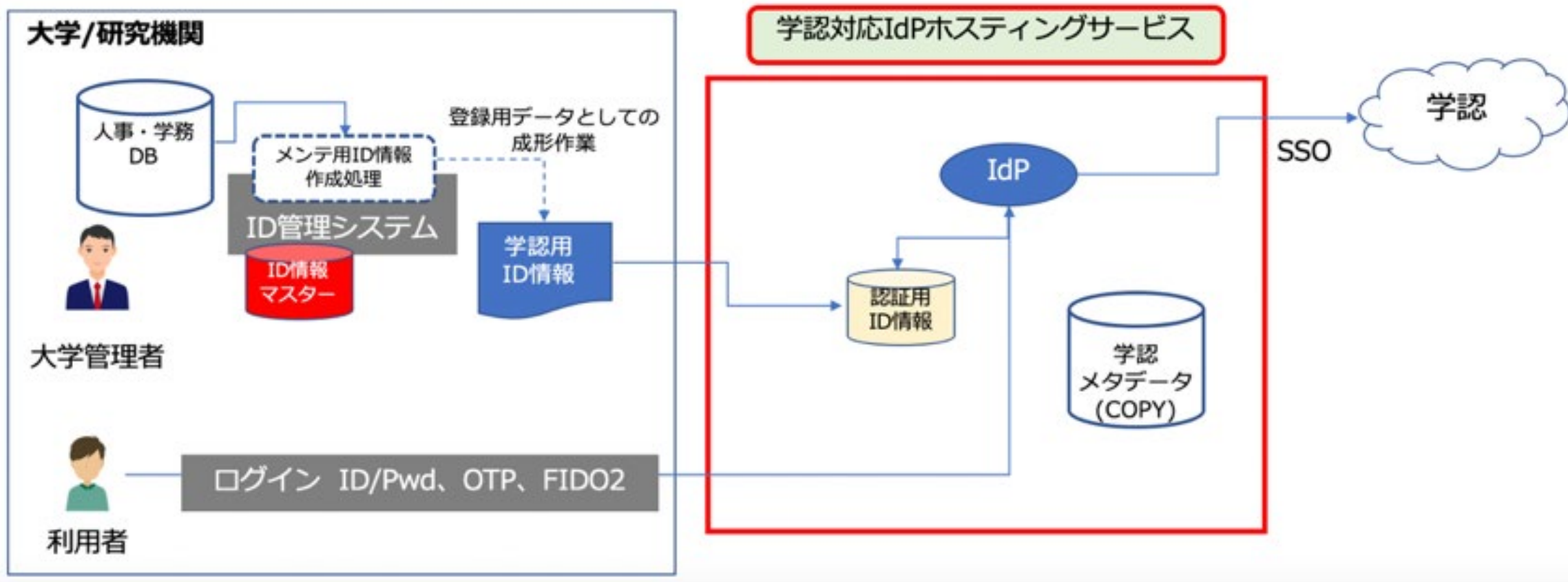
- 実証実験の目的：提供サービスの内容、参加機関における課題の分析
- 実証実験の内容：
 - 対象機関は、学認への参加を予定または検討中であり、IdPの構築、運用に課題がある機関、または、既に学認に参加しIDaaSへの移行を検討している機関
 - **学認対応のIdPサーバをクラウドサービス（IDaaS）として提供**
 - 実証実験の期間は、2023年3月～2024年4月の約1年間
 - 単なるIDaaSとして提供するだけでなく、各種支援も提供
 - ✓ 学認への参加手続きに関する支援
 - ✓ IdPホスティングサービスへの初回アカウント登録支援（2回目以降は機関側で対応）
 - ✓ IdPホスティングサービスの設定操作の支援
 - ✓ 学認に関するメタデータの登録支援
 - ✓ SP接続時の設定支援（5つまで。6SP以降は機関側にて対応）
 - ✓ 学認参加IdP運用状況調査の一部回答サポート など
- 募集の流れ：
 - 2023年1月 協力いただける機関（実証実験参加機関）の募集、全応募機関とヒアリング
 - 2023年2月末 参加機関（10機関）の決定



参考 <https://www.gakunin.jp/node/687>

学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

サービス構成



学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

参加機関の状況

- 実証実験参加機関数：10機関、合計約20,000アカウント

		アカウント数
1	S大学	1700 (教職員 + 全学生)
2	B大学	7500 (教職員 + 通学課程学生)
3	H院	100 (教職員)
4	K館	100 (教職員)
5	K所	350 (研究者 + 職員)
6	T大学	2000 (教職員 + 全学生)
7	A大学	1600 (教職員 + 全学生)
8	K大学	1000 (教員のみ)
9	S大学	450 (教職員のみ)
10	K大学	6400 (教職員 + 全学生)

(特徴)

- 既にUPKI を利用していた機関は7機関
- 学認参加済機関は0機関
 - 10機関とも学認未参加
- ID 管理システムを導入していた機関は3機関
 - すべてオンプレで導入
 - 該当の3機関は比較的大規模な組織
- 認証サーバにAzureAD を利用している機関は7機関

(実証実験開始時点、2023年4月)

学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

参加機関における利用SP ランキング

	SP名	利用機関数
1	学認クラウドゲートウェイサービス	9
2	NII FileSender	8
2	CiNii Research	8
4	GakuNin RDM	7
4	meatwiki	7
4	学認申請システム	7
4	eduroam JP 申請システム	7
8	しぼすけ	6
8	eduroamJP 認証連携IDサービス	6
10	GakuNin Federated Computing Services at NII (trial)	5
10	NII GakuNin LMS	5
10	NII attrviewer sp2.0	5
13	APRIN eラーニングプログラム(eAPRIN)	4

(参考)

3機関利用SP

- meatmail
- researchmap
- 医中誌Web

2機関利用SP

- Maruzen eBook Library
- ジャパンナレッジLib
- Refworks
- Atypon SP
- 医書.jp
- Elsevier
- Taylor & Francis Online
- メディカルオンライン
- Springer
- Semantico
- mdx
- EBSCOhost
- 求人検索NAVI
- JAIRO Cloudから学認へのproxyサービス

(2024年3月時点)

学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

参加機関の参加理由と実現できたこと

- 実証実験参加理由：
 - 学認参加のメリット、利便性の確認
 - 希望SPの利用、必要性の確認
 - IDaaSの有効性の検証
 - 運用面、費用面、セキュリティ面など
 - IdP構築ができなかった（人材、スキル不足のため）など
- 実証実験で実現できたこと：
 - 支援サービスにより学認に参加できた
 - 学認参加やSP利用申請の方法が分かった
 - IDaaSの検証ができた
 - IDaaSの各種操作、SP設定方法などがわかった
 - 運用に必要なスキルを確認できた
 - 希望SPが利用でき、学認の必要性の確認ができたなど

導入フェーズ完了時の評価

- IDaaSの機能全般：
 - 満足・やや満足：70%
 - どちらともいえない：30%
 - 「どちらともいえない」理由は、まだ使いこなせていないため不明
- 構築支援サービス：満足・やや満足：100%

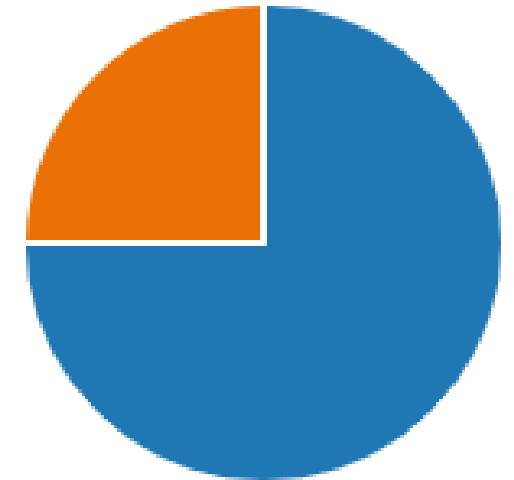
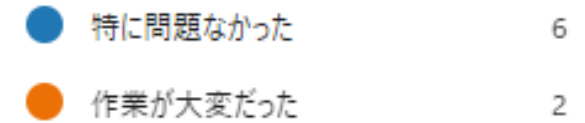
（実証実験参加機関向けアンケートおよびユーザ会（2023.7）より）

学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

参加機関における年度替りのID登録削除作業の負荷状況

- 特に問題なかった機関のコメント（6機関）
 - 学認ID取得は申請制なので。
 - IDの上限を超えたが、ライセンスに関しては柔軟に対応頂いたので特に問題はなかった。ただ、初日にEXTICが半日ほど落ちてしまい対応に追われた。
 - スムーズに作業ができました。
 - 退職者一覧のリストを確保しており、CSVと照らし合わせることによるユーザーの特定が容易であったため。
 - CSVインポートにて一括の処理ができたため。
 - 変更がなかったため。
- 作業が大変だった機関のコメント（2機関）
 - 年度替りの業務多忙の折、登録削除のタイミング調整が難しかった
 - 現在の契約ユーザー数では、年度更新時期に新入生受け入れ処理を行うには卒業生の削除を先に行わないと、ID数が足りなくなってしまう。このため実施タイミングが難しかった。

Q.卒業・入学（退職・就職）のためのIDの登録・削除作業の負荷について教えてください
 （前問で、年度替りの卒業・入学（退職・就職）のためのID登録・削除作業は実施したと回答した機関のみ回答）



学認対応IdPホスティングサービス実証実験2023

実証実験に参加することで出てきた課題

- 自組織に所属していない共同研究者などの対応
 - 組織の在籍者は、教職員、学生、留学生、研究員、派遣契約社員、客員教員など
 - さらに、自組織所属ではない共同研究者などが在籍している場合もあり
 - 在籍者数が増えるほどIDの管理、運用が大変

➡ NIIで別プロジェクトとして対応中
- 機関内におけるIdP、SPの運用ルール作り
- IdPの運用人員の確保
- 今後の予算の確保
- 機関内におけるIdP、SPの利用普及
 - 説明会の開催、マニュアル整備など
- 機関内での要望対応（利用したいSPの調査）
など

学認対応IdPホスティングサービスに関する 新しいお知らせ、ご案内

● 「学認対応IdPホスティングサービス実証実験2024」

を実施予定

- 募集内容の紹介（一部抜粋）
 - 対象機関：
 - 学認への参加を希望していること
もしくは、学認参加済で、IDaaS（ID as a Service）への移行を検討していること
 - 組織内で、学認に参加することの理解が得られること
 - 人員・コスト不足などにより IdP の構築や運用が困難であること など
 - 実施予定期間：2024年8月15日～3月31日
 - 募集機関数：40～50機関
 - 総ユーザ数：100,000ユーザ（1機関あたり平均2,000ユーザを想定）
- 別途、説明会開催予定（7月上旬予定）
- 詳細は、別途メールにてご案内